



# 「知への初々しい憧れと畏敬の念」

～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第40号

令和4年5月30日

## 5年生 バケツ稲

5月27日(金)5・6校時に、5年生が、バケツで稲を育てる「バケツ稲」体験をしました。講師は、稲作セットを準備してくださるパルシステムの方です。あいがたい限りです。

教師として押さえておきたいことは次のことです。小学校学習指導要領を確認すると、稲を扱うことが記載されていますので、確認いたしたいと思います。

我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。

(イ) 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。

(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

食料生産に関わる人々について、農業や水産業における食料生産の盛んな地域の具体的事例を通して調べたり、国民の主食を確保する上で重要な役割を果たしたりしている「稲作」を必ず取り上げることとなっています。このことはきちんと押さえておきたいことです。

パルシステムの方からは、お米が減るのはよくない、まずはお米を知ってほしい、ご飯を沢山食べて、お替わりをしてほしいとお話をいただきました。また、生産過程について、分かりやすくせつめいをしてくださいました。温湯消毒⇒田起こし⇒しろかき⇒田植え⇒草とり⇒合鴨農法⇒中干し⇒あぜかり⇒稲刈り、についてです。子どもたちは、これらの知識を習得した後、バケツに土と水を入れ、バケツでのしろかきをし、苗を植えました。泥をこねるなんて、あまりしていない子どもたち。学校でないとできない時代になったのでしょうか。楽しそうな子どもの声が学校中に響いたことに嬉しさを感じたとともに、立派な稲が実ることを祈っています。パルシステムの皆様、5年生の先生、準備等をしていただき、充実した学びとなりました。感謝です。

